

第1章 彦根市立図書館施設適正管理計画策定の背景

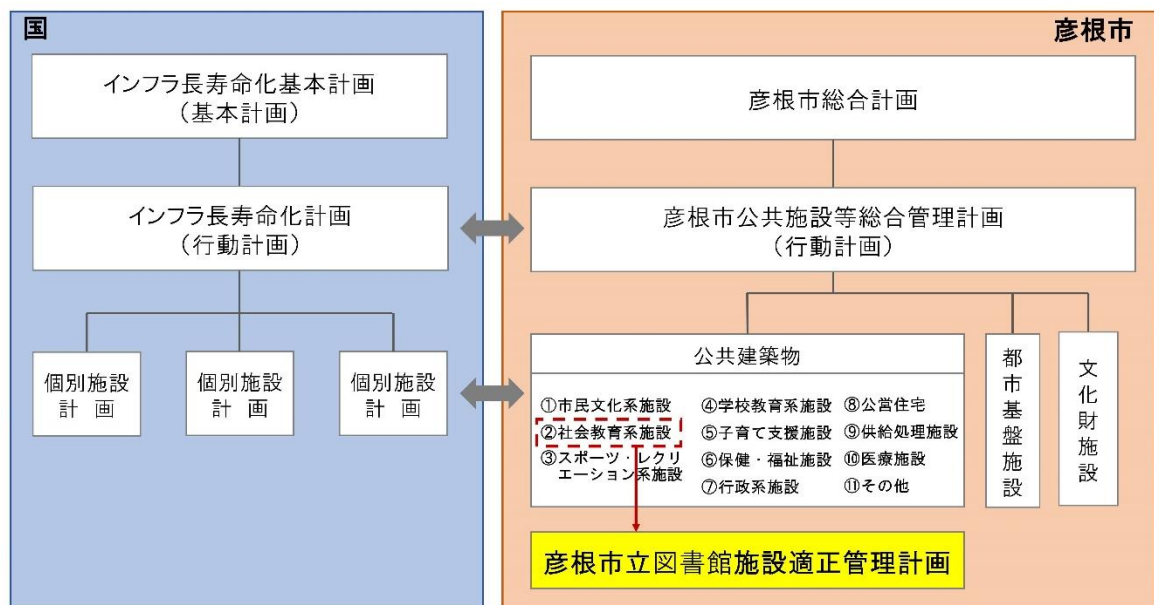
本市では、必要な市民サービスを提供していくため、公共施設全体を把握し、計画的な更新、統廃合、長寿命化を検討するとともに、財源の確保や効率的、効果的な施設運営等によって、コストと便益が最適な状態で保たれた上で、安全・安心な公共施設マネジメントを確立するための骨子となる「彦根市公共施設等総合管理計画」を平成28年（2016年）3月に策定し、令和4年（2022年）3月に改訂しました。

彦根市公共施設等総合管理計画では、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針」として、公共建築物について、①予防保全による長寿命化の推進、②総量の適正化、③公共施設の効率的かつ効果的な運営の3つを掲げており、個別の施設については、施設類型ごとの特性を踏まえ、個別施設計画を策定することとしています。

この「彦根市立図書館施設適正管理計画」は、これらの状況を踏まえ、彦根市立図書館の今後の管理、運営のあり方を検討し、施設の長寿命化、効果的かつ効率的な運営等について、具体的に示した個別施設計画を策定することを目的としています。

【位置付け】

本計画は、彦根市総合計画を上位計画とする「彦根市公共施設等総合管理計画」に基づく施設類型別の「個別施設計画」として位置づけるものです。



【図1 計画の位置付け】

【計画期間】

令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間とします。

【対象施設】

建物構造・規模
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
2階建一部3階建
延床面積
2,743㎡
竣工年
昭和54年（1979年）



第2章 対象施設の現況整理

■ 蔵書冊数

【蔵書冊数（令和4年(2022年)2月末日現在）】

現在の彦根市立図書館本館には、舟橋聖一記念文庫および動く図書館を含め、一般図書約50万冊、児童図書約19万冊の合計約69万冊の蔵書があります。

〔表1 蔵書冊数の内訳〕

区分	一般図書	児童図書	合計
本館	465,659冊	166,974冊	632,633冊
舟橋聖一記念文庫	17,511冊	56冊	17,567冊
動く図書館	13,459冊	10,884冊	24,343冊
団体貸出用（地域文庫）	2,990冊	10,236冊	13,226冊
合計	499,619冊	188,150冊	687,769冊

■ 建物劣化状況

【定期点検調査】

本計画では、今後修繕等が必要な箇所を抽出するため、平成28年度（2016年度）および令和元年度（2019年度）の定期点検調査結果において、要是正の判定基準であるC以上を抽出しました。

〔表2 定期点検調査における要是正の判定を受けた箇所数〕

調査年度	建築物	建築設備	合計
平成28年度（2016年度）	12箇所	7箇所	19箇所
令和元年度（2019年度）	15箇所	2箇所	17箇所

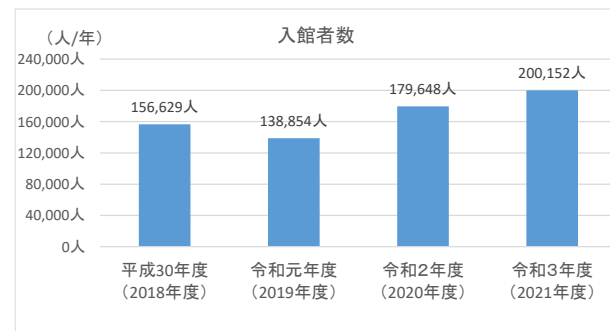
※ 令和元年度の建築設備の箇所数の減少は、令和元年度の項目が集約されことによるものです。

■ 利用状況

【入館者数】

平成30年度（2018年度）から令和3年度（2021年度）までの入館者数の推移は右のグラフのとおりです。

直近では、令和3年度（2021年度）が最も多く、年間換算で約22万人の入館者数となっています。

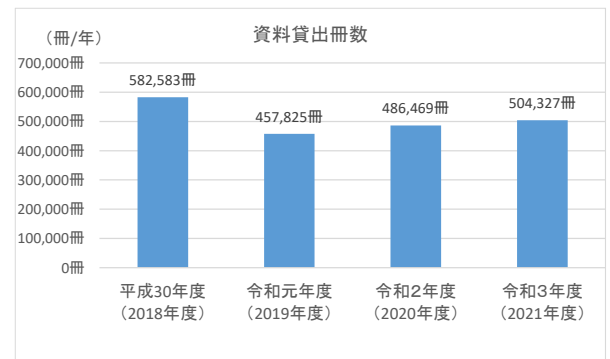


〔図2 入館者数の推移〕

【資料貸出冊数】

平成30年度（2018年度）から令和3年度（2021年度）までの資料貸出冊数の推移は右のグラフのとおりです。

直近では、平成30年度（2018年度）が最も多く、年間582,583冊の資料貸出冊数となっています。



〔図3 資料貸出冊数の推移〕

※ 令和3年度の入館者数および資料貸出冊数は、2月末時点となります。

第3章 彦根市立図書館の今後の方向性

■ 考え方

【彦根市図書館整備基本計画における方向性】

現在の彦根市立図書館は、活用を継続し北部館として位置付け、中央館、南部館との3館体制による運営を想定し、サービスポイントの設置や動く図書館たちばな号の巡回による市全域を網羅した図書館システムを構築します。

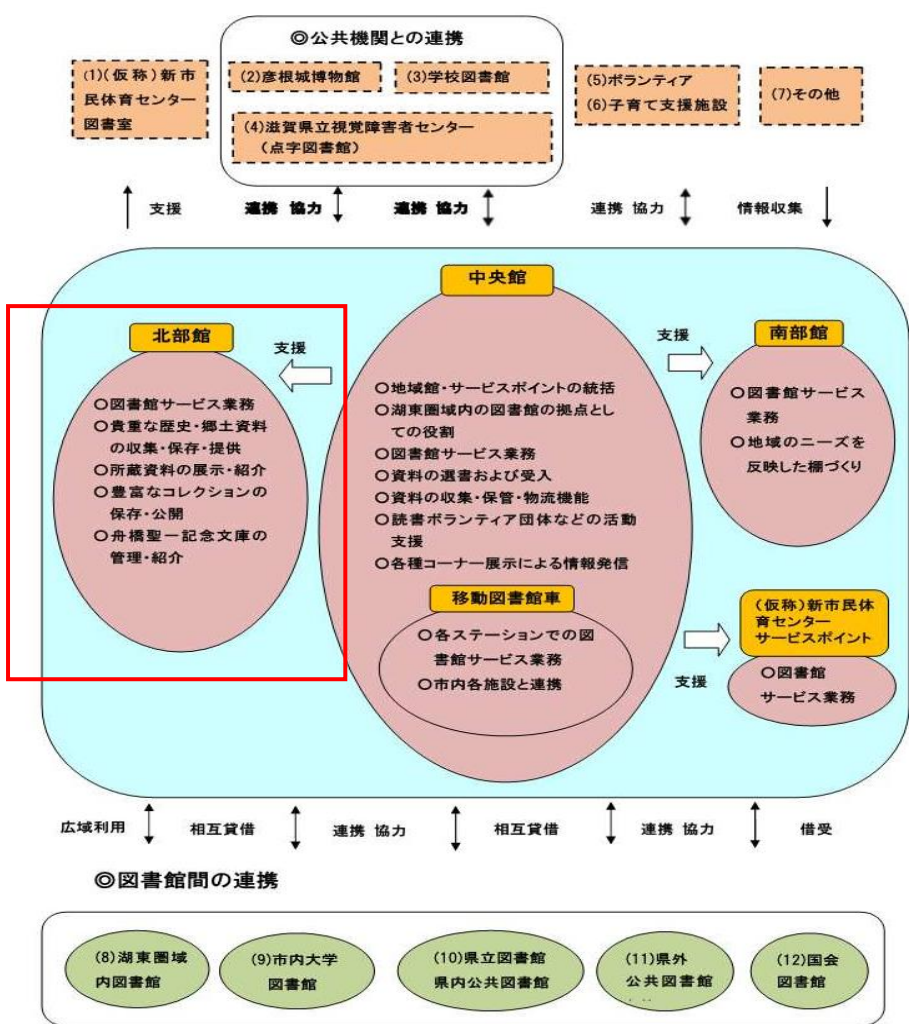
【図書館と各関係機関・施設・団体との連携・協力体制】

中央館と地域館（北部館・南部館）をつなぐ図書館システムの構築と図書館を取り巻く関係機関・施設・団体と連携・協力し、地域を支える図書館の実現に向けた取組を進めます。

【現況および課題を踏まえた方向性】

彦根市図書館整備基本計画に示すとおり、図書館は複数館体制とし、現在の彦根市立図書館は北部館として引き続き活用することを基本とします。

なお、彦根市図書館整備基本計画は、令和3年度から翌年度にかけて実施する「ひこね燦ばれすの図書館化にかかる調査検討」の結果等を踏まえ、令和4年度中に改訂する予定です。



〔図4 彦根市立図書館整備基本計画における連携・協力体制〕

第4章 彦根市立図書館の長寿命化

■ 長寿命化の方向性

【対策の優先順位の考え方】

建物については、各施設の劣化診断結果(判定レベルA～Dの4段階評価)、定期調査・検査報告の結果、および日常の保守点検等を通じて把握した劣化・不具合等の状況なども含めて、必要な対策を検討します。対策の検討においては、修繕に関する緊急度や利用者の安全面、施設の利用状況等を勘案し、対策の優先順位を判断します。

設備については、定期調査・検査報告の結果を踏まえるとともに、経過年数や保守点検結果、故障した場合に及ぼす影響の大きさ等を考慮し優先順位を判断します。

【目標使用年数の設定】

目標耐用年数は、鉄筋コンクリート造の標準供用級である65年と設定します。

■ 長寿命化の実施計画

【長寿命化の実施計画】

彦根市立図書館におけるこれまでの修繕実績、今後実施予定の修繕内容等を踏まえ、施設の長寿命化を図る上で、図書館機能を維持していくために必要な設備等についても、それぞれの耐用年数や劣化状況から、適正かつ計画的に予防保全を図ります。

【修繕計画】

修繕計画の策定にあたっては、「建築」、「電気設備」、「機械設備」などの各部位の修繕や更新等を計画的かつ合理的に行うため、「平成31年版建築物のライフサイクルコスト第2版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）」（以下「H31建築物LCC」という。）において望ましいとされている「予防保全＋事後保全」の保全方式を採用することとします。

予防保全費用は、他自治体における10年間の保全マネジメントシステムの運用を通じて得られたデータを活用するためH31建築物LCC算定プログラムを用いて算定し、事後保全費用は、実態に即した修繕を考慮するため彦根市立図書館における過去の修繕実績を踏まえ算定します。

また、定期点検調査等で補修・改善を要すると判定された点検項目のうち、利用上の安全確保や施設の長寿命化につながるものを中心に優先的な対策を実施することとし、令和4年度（2022年度）～6年度（2024年度）を大規模改修期間と位置づけ、対策に要する修繕工事費を計上します。

〔表3 修繕計画〕（単位：千円 金額には、消費税を含みません。）

期間	本計画期間(10年間)									
	大規模改修期間(R4～R6)			大規模改修後(R7～R13)						
	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度	令和11年度 2029年度	令和12年度 2030年度	令和13年度 2031年度
西暦	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
築年数	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年
予防保全	建築	1,210	26,911	92,582	0	0	0	0	6,400	0
	電気	29,836	0	0	2	2	2	2	17,297	239
	機械	28,254	56,273	0	0	863	644	2,761	5,448	1,609
	計	59,300	83,184	92,582	2	865	646	2,763	29,145	1,848
	各期間小計	235,066								
事後保全	期間累計	40,018								
	建築	132	132	132	132	132	132	132	132	132
	電気	383	383	383	383	383	383	383	383	383
	機械	725	725	725	725	725	725	725	725	725
	計	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240
合計(予防+事後)	各期間小計	3,720								
	期間累計	8,680								
	期間累計	12,400								
合計(予防+事後)	合計(予防+事後)	60,540	84,424	93,822	1,242	2,105	1,886	4,003	30,385	3,088
	各期間小計	238,786								
	期間累計	48,698								
合計(予防+事後)	期間累計	287,484								
	期間累計	287,484								
	期間累計	287,484								

※ 予防保全費用は、H31建築物LCC算定プログラムから部位・部材ごとの保全周期に基き、事後保全費用は、過去の修繕実績を踏まえ計上しているため、各年度に実際の工事を実施するかについては該当箇所の劣化等の状況を踏まえ判断します。

第5章 ユニバーサルデザイン化の推進方針

■ 本計画におけるユニバーサルデザイン化の推進方針

障害のある人や高齢者等をはじめ誰もが安全・安心に利用できるよう、彦根市立図書館の長寿命化のための改修等にあたっては、ユニバーサルデザイン化の推進を図ります。